



モッテコイ 誼訪小魂！

～ 本物の【あかぎの心】を發揮しよう ～

長崎市立誼訪小学校 校長 山崎 直人

圧巻！ 誼訪っ子くんちフェスティバル

11月1日（火）に「第26回 誼訪っ子くんちフェスティバル」を開催しました。創立時から始まり、コロナ禍でも脈々と続いてきた本校の特色ある学校行事です。参観者も昨年度までの制限を緩和し、本校児童に関わりのある方々に見に来ていただくことができました。地域の来賓も多く、楽しみにしておられることが伝わってきます。

子供たちは、1・2年生は生活科の学習として、3～6年生は総合的な学習の時間の地域学習として取り組みます。限られた稽古期間でしたが、真剣に、精一杯取り組みました。

フェスティバルは、誼訪ドッポの元気な開会宣言から始まりました。

最初に登場するのは1年生です。可愛い傘鉾が紗振り（しゃぶり）の先導で入ってきました。歩き方もちゃんと「練り足（ねりあし）」をしながら入場です。くんちのDNAが継承されていますね。

2年生はお神輿と北原白秋の詩「お祭り」をアレンジした言葉を元気に披露しました。体全体を使って張りのある声を出し、お神輿も上下に大きく波打ったり回ったりして会場を盛り上げました。



1・2年生のおかげで運動場が祭りの会場として熱気を帯びてきたところへ、一番手である魚の町の「川船」がやってきました。

本物同様、網打ちがあります。網打ち船頭は4年生の千々岩源亮さんです。堂々たる見事な網打ちを披露してくれました。長采を担当するのは、栗原宗風さん。軽快なお囃子に合わせて豪快な船回しを見せてくれました。

二番手は銀屋町の「鯨太鼓」です。長采を務めるのは高田莉子さん。迫力ある声と一糸乱れぬ力強い動きと天空への舞いに感動しました。

三番手は銅座町の「南蛮船」です。長采は、木原茉那さん。西洋楽器のリズムに合わせて、大海原を航海する姿が表現されました。ポルトガル語の歌も素晴らしかったです。



休憩を挟んで四番手で登場したのは、鍛冶屋町の「七福神・寶船」です。七福神の優雅な舞いにシヨモーヤレがかかります。長采の唐島龍・さんの指示に合わせて、宝船の力強い船回し。魅了されました。

五番手誼訪町の「龍踊」は、子供たちの棒捌きで命を得た3体の龍が、流れるような美しい動きで空を舞いました。リーダーは山根諒太郎さんでした。龍踊ならではの独特のお囃子のリズムもキレイに揃っていました。

今年最後を飾るのは万屋町の「鯨の潮吹き」です。長采の古澤莉々花さんの采配で、大鯨・中鯨それぞれに元気に力強く泳ぐ姿が目にと焼き付きました。最後の小鯨も可愛かったです。ヨッシリヨイサが耳に残りました。

6つの踊町の皆さんには、稽古期間から本番まで、熱心にご指導いただき、感謝でいっぱいです。子供たちは本物の伝統の業と思いにふれ、本番では全力を出し切りました。皆、いい笑顔でした。

保護者の皆さまのお力もお借りしながら、無事、今年も「誼訪っ子くんちフェスティバル」を終えることができました。ありがとうございました！

※裏面に6つの演し物の写真を載せています。

「川船」 (魚の町)



「七福神・寶船」 (鍛冶屋町)



「鯨太鼓」 (銀屋町)



「龍踊」 (諏訪町)



「南蛮船」 (銅座町)



「鯨の潮吹き」 (万屋町)

